

科目名	中等教科教育法Ⅰ（英語）			担当教員	西脇 幸太	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED1JTM235
期待される学修成果	教科教育 子ども理解					
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション					
実務経験	教諭					
実務経験を生かした授業内容	時代に即した英語の指導ができるよう、高等学校教諭経験を生かして、英語教育の基本的な知識・技能を養成する。理論的な側面に加え高等学校での指導経験を生かした実践的な観点からの考察も行う。					
到達目標及びテーマ	英語科教育に必要な基本的な知識を理解することができる。					
授業の概要	コミュニケーション能力育成に資する英語授業運営の基礎的な力を身につけることを目的とする。学習指導要領の主旨や様々な英語教授法の特徴を十分に理解するために、講義と演習を織り交ぜた形で考えてゆく。第13回および第14回では、指導法についてのプレゼンテーションをグループで行う。内容を充実させることはもちろん、グループのメンバーで協同的に取り組むこと、および分かりやすい発表にするために話し方や資料を工夫することにも重きを置く。					

授業計画	
第1回	イントロダクション 英語授業の成否の鍵
第2回	・学習者のスタイル ・英語の授業を行う上での前提・その1 英語教育の現状と課題を把握する
第3回	・英語の授業を行う上での前提・その2 目的・場面・状況の適切な設定のための視点
第4回	第1章 英語を学ぶこと、教えること
第5回	第2章 英語の指導目標と内容
第6回	現行の学習指導要領に基づく言語活動とは何か（動画から学ぶ）その1
第7回	現行の学習指導要領に基づく言語活動とは何か（動画から学ぶ）その2
第8回	前半のまとめ
第9回	第3章 学習者の要因
第10回	第4章 良い教師の条件
第11回	第5章 言語習得の理論上の諸問題
第12回	指導法についてのプレゼンテーションの概要説明および準備
第13回	第6章 指導法の変遷（1） （グループでのプレゼンテーション）
第14回	第7章 指導法の変遷（2） （グループでのプレゼンテーション）
第15回	まとめ

事前学修	2時間	全回：教科書の決められた範囲を熟読する。 第13回・第14回：グループで、プレゼンテーションの準備を行う。
事後学修	2時間	授業の復習を行うとともに、授業で得た知見を基に、授業案・指導法を考案する（具体的な授業案は、第13回・第14回のプレゼンテーションで盛り込む）。 ※英語指導の基盤は英語力にあることは言うまでもない。他の様々な授業に意欲的に取り組むとともに、単語学習、英語リスニング訓練といった地道な学習も怠らないこと。
フィードバックの方法	毎回の発表や議論、およびプレゼンテーションに対しては、各発表者に対して口頭でフィードバックを行う。また、必要に応じて個別にメールでフィードバックを行う。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		70%	知識・理解・論理的な記述
上記以外の試験・平常点評価		30%	授業中の取り組み（ペア／グループワーク・プレゼンテーション・質疑応答）
補足事項	英語教育の方法論を学ぶことは、英語の実用面と並行して行われるべきものです。常に、高度な英語力を身に付けるための努力を継続してください。本授業は、時代の要請と共に変わるべきこと（流行）と、変えてはならないこと（不易）のバランスを保ちながら展開していきます。骨太の英語教育を実践するためには、自分が教わったように教えればよい、という考えを一度冷静に見つめ直す必要があります。受講生の皆さんには、教授者としての視点と学習者としての視点を併せ持つことのできる利点を生かし、積極的に議論に参加することを期待しています。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新英語科教育法入門	土屋澄男、秋山朝康、大城賢、千葉克裕、望月正道	研究社	978-4-327-37513-3	中等教科教育法Ⅱ～Ⅳまで継続して使用します。
参考資料	・小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編 ・中学校学習指導要領解説外国語編（授業で常に参照できるようにしておく） ・高等学校学習指導要領解説外国語編（授業で常に参照できるようにしておく）			

科目名	中等教科教育法Ⅱ（英語）			担当教員	西脇 幸太	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2JTM236	
期待される学修成果	教科教育 子ども理解					
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション					
実務経験	教諭					
実務経験を生かした授業内容	時代に即した英語の指導ができるよう、高等学校教諭経験を生かして、英語教育の基本的な知識・技能を養成する。理論的な側面に加え高等学校での指導経験を生かした実践的な観点からの考察も行う。					
到達目標及びテーマ	英語科教育に必要な基本的な知識を理解することができる。					
授業の概要	コミュニケーション能力育成に資する英語授業運営の基礎的な力を身につけることを目的とする。発音、文字、語彙、文法指導および4技能5領域の指導法を十分に理解するために、講義と演習を織り交ぜた形で考えてゆく。					

授業計画	
第1回	イントロダクション 第8章 発音の指導（1）
第2回	第8章 発音の指導（2）
第3回	第9章 文字と綴り字の指導（1）
第4回	第9章 文字と綴り字の指導（2）
第5回	第10章 語彙の指導（1）
第6回	第10章 語彙の指導（2）
第7回	第11章 文法の指導（1）
第8回	第11章 文法の指導（2）
第9回	第12章 リスニングの指導（1）
第10回	第12章 リスニングの指導（2）
第11回	第13章 スピーキングの指導（1）
第12回	第13章 スピーキングの指導（2）
第13回	マイクロティーチング（模擬授業）（1）
第14回	マイクロティーチング（模擬授業）（2）
第15回	まとめ

事前学修	2時間	教科書の決められた範囲を熟読する。 模擬授業の準備を進める。
事後学修	2時間	授業の復習を行うとともに、授業で得た知見を基に、授業案・指導法を考案する。 ※英語指導の基盤は英語力にあることは言うまでもない。他の様々な授業に意欲的に取り組むとともに、単語学習、英語リスニング訓練といった地道な学習も怠らないこと。
フィードバックの方法	毎回の発表や議論、および模擬授業に対しては、各発表者に対して口頭でフィードバックを行う。また、必要に応じて個別にメールでフィードバックを行う。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		70%	知識・理解・論理的な記述
上記以外の試験・平常点評価		30%	授業中の取り組み（ペア／グループワーク・発表・質疑応答）
補足事項	英語教育の方法論を学ぶことは、英語の実用面と並行して行われるべきものです。常に、高度な英語力を身に付けるための努力を継続してください。本授業は、時代の要請と共に変わるべきこと（流行）と、変えてはならないこと（不易）のバランスを保ちながら		

展開していきます。骨太の英語教育を実践するためには、自分が教わったように教えればよい、という考えを一度冷静に見つめ直す必要があります。受講生の皆さんには、教授者としての視点と学習者としての視点を併せ持つことのできる利点を生かし、積極的に議論に参加することを期待しています。

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新英語科教育法入門	土屋澄男、秋山朝康、大城賢、千葉克裕、望月正道	研究社	978-4-327-37513-3	「中等教科教育法Ⅰ（英語）」で使用したものを継続使用します。
参考資料	・小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編 ・中学校学習指導要領解説外国語編 ・高等学校学習指導要領解説外国語編 ※本授業の教科書は、「中等教科教育法Ⅰ（英語）」で使用したものを継続使用します。ただし、中学校の英語教科書を新たに準備（購入）していただきます。詳細は、授業で指示をします。			

科目名	中等教科教育法Ⅲ（英語）			担当教員	西脇 幸太	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2JTM237
期待される学修成果	教科教育 子ども理解					
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション					
実務経験	教諭					
実務経験を生かした授業内容	時代に即した英語の指導ができるよう、高等学校教諭経験を生かして、英語教育の基本的な知識・技能を養成する。理論的な側面に加え高等学校での指導経験を生かした実践的な観点からの考察も行う。					
到達目標及びテーマ	・英語科教育に必要な基本的な知識を理解することができる。 ・英語指導技術の基礎を習得することができる。					
授業の概要	コミュニケーション能力育成に資する英語授業運営の基礎的な力を身につけることを目的とし、技能統合型の言語活動の理論と実践を学ぶ。本授業は、講義と演習を織り交ぜた形で展開する。模擬授業は、指導案を作成し、具体的な場面設定をして実施する。反省評価をしながら指導技術の基礎を養う。					

授業計画	
第1回	イントロダクション 第14章 リーディングの指導（１）
第2回	第14章 リーディングの指導（２）
第3回	第15章 ライティングの指導（１）
第4回	第15章 ライティングの指導（２）
第5回	第16章 言語技能を統合した指導（１）
第6回	第16章 言語技能を統合した指導（２）
第7回	第16章 言語技能を統合した指導（３） 第17章 教材研究と授業の準備
第8回	前半のまとめ
第9回	第18章 授業案の作成と授業の進め方
第10回	模擬授業準備
第11回	模擬授業（１）
第12回	模擬授業（２）
第13回	模擬授業（３）
第14回	年間指導計画・単元指導計画の考え方 単元指導計画の作成
第15回	まとめ

事前学修	2時間	教科書の決められた範囲を熟読する。 模擬授業の準備を進める。
事後学修	2時間	授業の復習を行うとともに、授業で得た知見を基に、授業案・指導法を考案する。 ※英語指導の基盤は英語力にあることは言うまでもない。他の様々な授業に意欲的に取り組むとともに、単語学習、英語リスニング訓練といった地道な学習も怠らないこと。
フィードバックの方法	毎回の発表や議論、および模擬授業に対しては、各発表者に対して口頭でフィードバックを行う。また、必要に応じて個別にメールでフィードバックを行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	70%	知識・理解・論理的な記述

上記以外の試験・平常点評価		30%	授業中の取り組み（ペア／グループワーク・発表・質疑応答）
補足事項	英語教育の方法論を学ぶことは、英語の実用面と並行して行われるべきものです。常に、高度な英語力を身に付けるための努力を継続してください。本授業は、時代の要請と共に変わるべきこと（流行）と、変えてはならないこと（不易）のバランスを保ちながら展開していきます。骨太の英語教育を実践するためには、自分が教わったように教えればよい、という考えを一度冷静に見つめ直す必要があります。受講生の皆さんには、教授者としての視点と学習者としての視点を併せ持つことのできる利点を生かし、積極的に議論に参加してくれることを期待しています。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新英語科教育法入門	土屋澄男、秋山朝康、大城賢、千葉克裕、望月正道	研究社	978-4-327-37513-3	「中等教科教育法Ⅰ・Ⅱ（英語）」で使用したものを継続使用します。
参考資料	・ 小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編 ・ 中学校学習指導要領解説外国語編 ・ 高等学校学習指導要領解説外国語編			

科目名	中等教科教育法Ⅳ（英語）			担当教員	西脇 幸太	
単位	2単位	講義区分			ナンバリング	ED3JTM238
期待される学修成果	教科教育 子ども理解					
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション					
実務経験	教諭					
実務経験を生かした授業内容	時代に即した英語の指導ができるよう、高等学校教諭経験を生かして、英語教育の基本的な知識・技能を養成する。理論的な側面に加え高等学校での指導経験を生かした実践的な観点からの考察も行う。					
到達目標及びテーマ	・英語科教育に必要な基本的な知識を理解することができる。 ・英語指導技術の基礎を習得することができる。					
授業の概要	コミュニケーション能力育成に資する英語授業運営の基礎的な力を身につけることを目的とし、評価の観点を適切に盛り込んだ授業計画に基づき、授業を行うための理論と実践を学ぶ。本授業は、講義と演習を織り交ぜた形で展開する。模擬授業は、単元指導計画および1時間の指導案を作成して実施する。反省評価をしながら指導技術の基礎を養う。					

授業計画	
第1回	イントロダクション 第19章 ICT を活用した授業（1）
第2回	第19章 ICT を活用した授業（2）
第3回	第20章 教授・学習形態の多様性（1） ペアワーク・グループワークを行う際の留意点
第4回	第20章 教授・学習形態の多様性（2） ペアワーク・グループワークの具体例
第5回	第21章 テストと評価（1） 評価の3観点
第6回	第21章 テストと評価（2） 観点別評価の考え方
第7回	第21章 テストと評価（3） 定期試験（筆記）の作り方
第8回	前半のまとめ
第9回	第21章 テストと評価（4） パフォーマンステストの作り方
第10回	評価の観点を含んだ指導案の作成
第11回	模擬授業準備
第12回	模擬授業（1） 単元指導計画および評価の観点を盛り込んだ指導案を作成すること
第13回	模擬授業（2） 模擬授業（1）でのコメントを踏まえて改善した授業を行う
第14回	模擬授業（3） 代表者による全体での模擬授業
第15回	まとめ

事前学修	2時間	教科書の決められた範囲を熟読する。 模擬授業の準備を進める。
事後学修	2時間	授業の復習を行うとともに、授業で得た知見を基に、授業案・指導法を考案する。 ※英語指導の基盤は英語力にあることは言うまでもない。他の様々な授業に意欲的に取り組むとともに、単語学習、英語リスニング訓練といった地道な学習も怠らないこと。

フィードバックの方法	毎回の発表や議論、および模擬授業に対しては、各発表者に対して口頭でフィードバックを行う。また、必要に応じて個別にメールでフィードバックを行う。
------------	---

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		70%	知識・理解・論理的な記述
上記以外の試験・平常点評価		30%	授業中の取り組み（ペア／グループワーク・発表・質疑応答）
補足事項	※本授業の教科書は、「中等教科教育法Ⅲ（英語）」までに使用したものと同じですので、新たに購入する必要はありませんが、以下は新たに準備（購入）していただきます。 ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校編 外国語）（ウェブ上で公開されていますので、必ずしも購入する必要はありませんが、常に授業で参照しメモ等ができるようにしておいてください。冊子媒体で持っている方が便利です。） ・中学校英語教科書1～3年生分（準備・購入に当たっては、授業で指示をしますので指示があるまで待っててください。）		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新英語科教育法入門	土屋澄男、秋山朝康、大城賢、千葉克裕、望月正道	研究社	978-4-327-37513-3	「中等教科教育法Ⅰ～Ⅲ（英語）」で使用したものを継続使用します。
参考資料	・小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編 ・中学校学習指導要領解説外国語編 ・高等学校学習指導要領解説外国語編			